

- 若 狭) 絞りに興味があり行きたいと思っていた。職人さんの高齢化が進んでいるとのことだったが、5名ほど新しい若い方が携わっていると聞いた。会長のお話で資金も大事だが、なにより女性の力が大事というお話で、私たち女性もがんばろうと思った。
- 見 矢) まちづくりや伝建ではお金も大事だが、取り組みをする人が大事だと感じた。いい意味での「物好きな人」という会長の意見に共感した。町を愛する心を持って、ハートを熱く、私も微力ながら協力していけたらと感じた。
- 根 来) ガイドの実働人数が25人と聞き、うらやましく思った。建物では立派な「うだつ」に目を惹かれ、東海道の通る立派なところだと感じた。もとはあれほどの道幅があったのかと思った。湯浅の伝建地区ももっとやれることはあると感じた。
- 前 田) 有松がすごいのはわかったが、湯浅が良いまちだと再認識しました。初めて湯浅に来たとき、今回の有松以上に、こんなまちがあるのか、と感激した。これからも微力ながら協力していきたい。
- 守 屋) 湯浅の住民パワーも負けていないと感じた。行政のバックアップも大きく感じる。これからも続けていきたい。
- 竹 中) 有松には有松の、湯浅には湯浅に合ったやり方があると感じた。湯浅は伝建だけで盛り上がり、他のところから浮いている。伝建地区内だけでなくまわりを巻き込んで、やっていくことが大事だ。
- 上野山) 住民パワーより行政が進んでいたから伝建になるのが遅かったのかな、湯浅は住民が先に進んでいたから10年前に伝建になれたのかと思った。
- 丸 山) 初めて有松絞りを知りました。まちなみはすばらしかったのですが、水曜日で絞り会館が休みだったことが残念です。また、交流の時間があつという間で、もっとお話したかったなと思った。
- 竹 田) 住民団体の活動で、改めて思ったのが、わたしたちの活動が、町民の認知度がまだまだ低く、もっと広報してほしいと感じました。ボランティアの力も必要で、もっと声かけが必要だと感じた。

湯浅町役場からのお知らせ

4月から役場の組織が変わり、地方創生ブランド戦略推進課 歴史文化係が伝建の担当となりました。役場内の配置は変わっていません。

また、担当職員も以下のように変わりました。皆様と一緒に伝建のまちなみを守っていききたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

地方創生ブランド戦略推進課	歴史文化係	山 本 隆 重
		梓 谷 侑 典(新担当)
		松 本 京 子(新担当)

湯浅伝建地区保存協議会

まちなみ瓦版に皆様のご要望などを掲載していきたいと思ひます。ご意見・ご要望などございましたら、保存協議会委員まで連絡をお願いします。

■ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~denken-yuasa>

編集委員

半邊 宗五	楠山 吉雄
油谷 太一	妻木 良三
阿瀬 雅晴	道津 節子

まちなみ瓦版

■平成30年 6月 1日

■第 39 号

■発行：湯浅伝建地区保存協議会

■発行責任者：木下 智之

第12回 ゆあさ行灯アート展 2018

4月29日(日)～5月3日(木)の5日間ゆあさ行灯アート展を開催しました。今年で12回を迎える行灯アート展ですが、今年も大変多くの観光客の方々にお越しいただき、行灯のあたたかい光に包まれた湯浅のまちなみを楽しんでいました。

演奏会などのアトラクションでは大変ご盛況をいただき、会場内だけに留まらず会場外まで立ち見客ができるほどの賑わいを見せました。

また、外国の方々も見えられ、能などの日本の伝統芸能に大変興味をもたれていました。



五月人形めぐりと天神飾り

今年も「湯浅まちなみひなめぐり」に続いて、4月7日(土)～5月6日(日)まで「五月人形めぐり」を実施しました。一昨年は、町内8箇所のみでの展示でしたが、去年から住民の方々にも協力してもらい、個人宅へも展示させてもらえるようになり、今年は22箇所での展示することができました。

また、新しく4月からオープンした甚風呂別館では、併せて天神飾りの展示も行いました。



あじさいオープンガーデン

今年も「オープンガーデン」が始まり、6月3日から下旬頃まで湯浅まちなみの会が主催の「あじさいめぐり」も合わせて開催します。様々な種類のあじさいが湯浅のまちなみを鮮やかに彩ります。

今年は、いつもよりあじさいの時期が早いので、ぜひお早めにお楽しみ下さい！



平成29年度 保存修理事業のご報告

平成29年度として、以下の保存修理事業が実施されました。

工事内容を紹介しますので、建物の改修などを検討されている方は、参考にしてください。

若狭家土蔵修理工事（浜町）

※復原・・・現状に復するという意味です。

工事前



工事後



【工事内容】
・屋根瓦の葺替え
・外壁のトタンを撤去し、痕跡に基づいて漆喰塗り、板張り復原

加納家土蔵及び納屋修理工事（北町）

工事前



工事後



【工事内容】
・外壁の板張替え
・外壁の漆喰塗りの補修
・屋根瓦の葺替え

太田家洗い場修理工事（北町）

工事前



工事後



【工事内容】
・材料や道具等の洗い場のレベル調整
・モルタルの塗替え

平成29年度保存協議会視察研修 IN 有松

平成29年度の視察研修は、「有松絞」で有名な愛知県名古屋市の有松伝統的建造物群保存地区に行ってきました。有松は、平成28年（2016）に染織町として国の重伝建に選定された町並みです。昭和48年（1973）に発足した「有松まちづくりの会」を中心に保存活動の歴史は古く、旧東海道沿いに並ぶ豪壮な絞問屋の屋敷構えが見ごたえのある町並みでした。



視察研修には17名が参加し、はじめに「有松あないびとの会」のガイドで、有松山車会館や竹田家住宅などの内部見学、町並みの案内などを受け、続いて昼食をとりながら、「有松あないびとの会」成田会長ら地元住民との意見交換会を実施しました。

意見交換会では、有松には10団体ほどの住民団体があって、町並み保存やガイド、地元の祭りの継承、防災といった取組みをしていること、65歳を過ぎた人や嫁いできた女性などが活動に参加してくれていること、資金もそうだが何より人、特に女性の力が大切だということが話され、積極的な質問も飛び交う中、充実した視察研修となりました。



研修を終えて～参加者の感想～

木下）湯浅でも65歳になれば伝建の協議会に入れる、というくらいのスカウト活動をやってもいいのかなと思った。会員の増加がこれから10年の課題と感じた。雛人形を展示していたが、お雛さんに色々な格好をさせて動きを見せるような展示をしていて面白かった。しかし、人形を痛めることになり、寄贈いただいた所有者さんに申し訳ないので湯浅では難しいかなと思う。

太田）研修先が有松であることに疑問を感じたが、実際に来てみてこんなすばらしいところがあったのかと感激した。しかし、研修が水曜日で定休日の所があるためか、観光客が少なく感じた。観光地の雰囲気あまり無かったので、賑わっているところを見たいと思った。

三橋）名古屋市の人口が230万人と和歌山県の人口の2倍以上で、有松地区だけで湯浅町全体と同じくらいの人口ということから湯浅とは規模が大きく違うと感じた。

楠山）あないびとの会は40人とのことだったが他所の人が多いと聞いた。どこの地域でも高齢化が進む中、地区内の人だけでは難しいのだと感じた。湯浅でも他地区の人に参加してもらうことも必要なのかなと感じた。

道津）規模に驚いた。小路でもひとつの家の塀がずっと続いており、湯浅との景色の違いがすごかった。まちづくりに力を入れて45年とのこと文化財指定の建物が多くあった中でも松の木の手入れのお家で、松の木の維持に苦労しているそうで、市から補助は出ているが年間3千円と微々たるもので、指定を受けていることは立派だが、維持については大変なことが多くあると感じた。